

科目	数値流体力学 (Numerical Fluid Dynamics)		
担当教員	柿木 哲哉 教授		
対象学年等	全専攻・2年・前期・選択・2単位		
学習・教育目標	A2(100%)	JABEE基準1(1)	(c),(d)1
授業の概要と方針	本講義は水、空気などの流体運動を数値的に解くための基礎式やその解法を説明し、具体的なテーマの課題を解く。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A2】流れの現象を物理的観点から理解し、数学的に方程式で表現できる。		流れの現象を物理的観点から理解し、数学的に方程式で表現できるか、定期試験とレポートで評価する。
2	【A2】上記方程式の離散化と差分化ができる。		上記方程式の離散化と差分化ができるか定期試験とレポートで評価する。
3	【A2】流れ関数法を用いた完全流体の数値計算ができる。		流れ関数法を用いた完全流体の数値計算ができるか定期試験とレポートで評価する。
4	【A2】渦度・流れ関数法を用いた粘性流体の数値計算ができる。		渦度・流れ関数法を用いた粘性流体の数値計算ができるか定期試験とレポートで評価する。
5	【A2】座標系を用いた完全流体の数値計算ができる。		座標系を用いた完全流体の数値計算ができるか定期試験とレポートで評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験90% レポート10%として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。評価におけるレポートの比率は低いが、レポートが少ないわけではないので、注意されたし。また、レポートをすべて提出していることが試験を受けるための条件である。		
テキスト	適宜プリントを配布する		
参考書	工学基礎技術としての物理数学I：導入編：由比政年・前野賀彦（ナカニシヤ出版） 流体力学：日野幹雄（朝倉出版）		
関連科目	応用数学，水力学，水理学，数値計算		
履修上の注意事項	課題ではプログラミングをする必要がある。講義では計算のフロー等についての説明は行いが、個別の言語を用いたプログラミングの説明は行わない。従って、FORTRAN，C，Pascalなどのプログラム言語を扱えることが必要である。また、出欠の取扱いは本科に準ずる。授業の進度は理解度に応じて調整することがある。		

